

2023.11.6



## 藤沢市学校部活動の 地域移行・地域連携の方向性及び計画（案）

～学校部活動の課題解消と  
持続可能なスポーツ・文化芸術環境の整備に向けて～

藤沢市教育委員会

Fujisawa City Promotion



### 令和4年度に「課題」として捉えていたこと



#### 第1回準備連絡会の報告から

- 部活動と「受け皿」となる地域指導団体をどのように結び付けていくのか
- 藤沢市の規模や生徒数、部活動数を考えると、種目や地域の実情に応じた運営主体をどのように考えるか
- スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等との連携や管理運営について様々な手法を検討する必要性
- 兼職兼業の仕組みの構築や指導者の確保
- 令和5年度に休日の活動として3つのモデル実証を行い、成果と課題を評価分析し次年度以降につなげていく



Copyright © Fujisawa City Office. All rights Reserved.

1

## 本市の学校部活動の現状と課題



- ◆令和5年度市新人大会において、軟式野球とソフトボールのそれぞれ4チームが部員不足のため合同チームに
- ◆他の種目においても、部員不足から1年生大会の出場を合同チームにするケースが出てきている
- ◆10年以上前に比べ正規職員の数が減っているにもかかわらず、各校の部活動設置種目はほぼ変わっていない
- ◆市内北部や中部の一部中学校で小規模校化が進み、部活動が廃部となる等、活動の縮小化が進んでいる
- ◆指導経験、協議経験のない種目の指導をせざるを得ない教員の負担が大きい
- ◆顧問教員は、部活動指導に係る長時間勤務や休日勤務を含めた勤務時間に負担を感じている




## 令和5年度「地域移行」モデル実証から



- ◇休日の地域クラブ化は「理想的な姿」だが、すべての学校部活動に行き届くには時間と労力と費用が相当かかる
- ◇学校部活動の課題が何も解消されないまま地域に移行していくのは、負担の移行でしかない
- ◇学校長の推薦による外部指導者の発掘には限界があるものの、地域で指導を希望する人材や団体が学校部活動に参入するには壁が大きい
- ◇地域クラブ活動の立ち上げ時には、教員も一緒に指導に当たることで生徒が安心して地域指導者の指導を受けられる
- ◇将来的な課題として、活動場所の確保や保護者の経済的負担を考えると、1つの部活動だけでなく、複数校の部活動を横断的に指導できることが望ましい



## 第1ステップと第2ステップに整理



### 第1ステップ

市教育委員会が主導して整備すること


学校部活動の課題解消

学校部活動を持続可能なスポーツ・文化環境の土台に

### 第2ステップ

市長部局が主導して整備すること


持続可能なスポーツ・文化環境の整備



Copyright © Fujisawa City Office. All rights Reserved.

4

## 令和6年度～ 第1ステップで行うこと



### 第1ステップ


市教育委員会が主導して整備すること

◎休日の部活動を「拠点校型学校部活動」とする

- 休日の部活動数を「拠点校型方式」で絞る
- 絞った拠点校型学校部活動に、地域人材をより多く紐づける

<市長部局との取り組み>

第2ステップへ円滑につなげられるよう、市長部局と情報共有や情報交換を適宜行う



Copyright © Fujisawa City Office. All rights Reserved.

5

## 令和X年度～ 第2ステップで行うこと



### 第2ステップ

市長部局が主導して整備すること

- ◎休日の学校部活動をすべて廃止し、新たな地域クラブ活動を開始する
- ◎社会教育の視点から、持続可能な藤沢市の中学生のスポーツ・文化芸術環境を整備する

### <市教育委員会の取り組み>

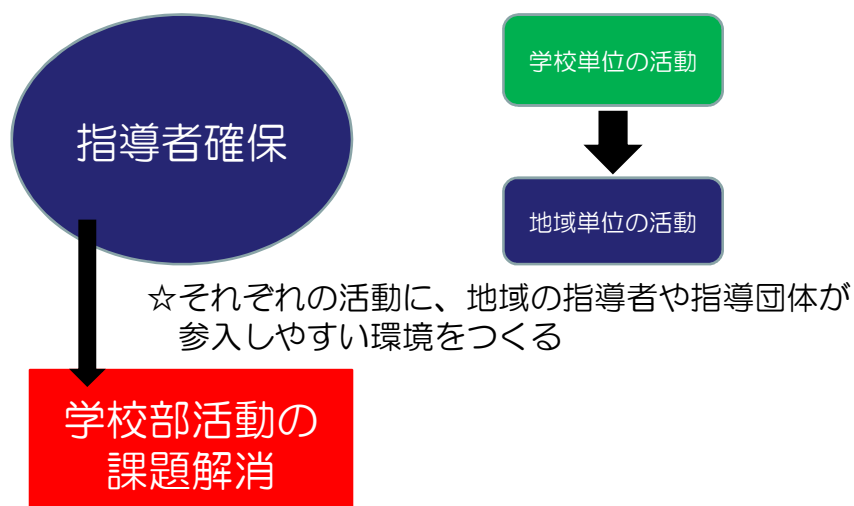
平日の部活動の地域移行について環境整備等の研究を行うとともに、平日の部活動の地域クラブ化へ向け、市長部局と連携して取り組む



Copyright © Fujisawa City Office. All rights Reserved.

6


## なぜ「拠点校型学校部活動」なのか？



Copyright © Fujisawa City Office. All rights Reserved.


7

## 「拠点校型学校部活動」とは？




＜本市の休日に活動を行う部活動種目ー12種目＞

吹奏楽 軟式野球 ソフトボール サッカー 陸上競技 ソフトテニス  
ラグビー バasketボール バレーボール バドミントン 剣道 卓球




**休日の活動**

B中学校



生徒と教員等指導者は  
それぞれの拠点校で活  
動する


A中学校



軟式野球  
陸上競技  
Basketボール  
剣道


ソフトボール  
ソフトテニス  
バレーボール  
卓球

C中学校



サッカー  
ラグビー  
バドミントン  
吹奏楽


平日は所属校の学校部活動  
で活動を継続




Copyright © Fujisawa City Office. All rights Reserved.

8

## 「拠点校型部活動」の利点とは？



- ◎現在学校に設置されている部活動を、課題を解消しつつ、「地域クラブ」へ移行する土台につながる
- ◎軟式野球とソフトボールの部員不足解消の手立てに
- ◎新たに挑戦したい種目と出会う機会となるほか、志向に合った活動の提供へつながる
- ◎指導を望む教員と望まない教員双方の希望を叶えられる
- ◎学校間の生徒、指導者の交流が促進される
- ◎持続可能な運営について、地域を交えて進められる



Copyright © Fujisawa City Office. All rights Reserved.

9

## 「拠点校型部活動」の課題とは？



- 指導者確保
- 複数の指導者による指導体制が組まれることが必須
- 生徒、保護者、教職員、地域の指導者、地域住民、様々な関係機関等への丁寧な説明と、理解を得ること



## 第1ステップ 令和6年度の計画



休日の活動について、20ケース（調整中）の取組を行う

地域移行

\*休日は「地域クラブ」とする

☆管理運営団体が地域人材を試験的に休日の地域クラブに紐づける（3）（今年度の滝の沢・高浜の様なケース）

地域連携

\*休日も「学校部活動」として行う

□管理運営団体が地域人材を試験的に学校部活動に紐づける（2）（外部指導者とは異なる新たな人材）

◇拠点校型軟式野球部（9） ◆拠点校型リフトボール部（6）



## 第1ステップ 令和6年度の計画



- 検討専門部会を「A休日の部活動地域移行に伴う（教員及び地域指導者の）兼職兼業制度」、「B経済困窮家庭への支援制度」の2つに絞って整理し運営
- 管理運営団体に「地域指導者」の掘り起こしや総数の把握など、「指導者」に関する業務を委託する
- 令和7年度に新たに開始する拠点校型学校部活動の調整と準備を進める

中体連

吹奏楽

広域的  
スポット的



Copyright © Fujisawa City Office. All rights Reserved.

12

## 第1ステップ 令和7年度以降の計画



条件が整った段階で

- 夏総体後、拠点校型学校部活動を運動部全種目で開始する
- 吹奏楽の拠点校型学校部活動は、10月以降の開始とする
- 6月頃、兼職兼業制度を教員に周知し、休日の指導を希望する教員の把握を行う
- 地域指導者として地域人材を段階的に拠点校型部活動に紐づける
  - ・企業、プロスポーツチーム、サークル等との連携により、広域的且つスポット的な地域クラブ活動についての情報収集及び情報提供を行う



Copyright © Fujisawa City Office. All rights Reserved.

13

## 令和X年度 第1ステップ→第2ステップ



### 市長部局 第2ステップ（地域移行）へ

休日の拠点校型学校部活動は、  
すべて管理運営団体管理下の「地域クラブ活動」に

市教育委員会は「平日の学校部活動の地域移行」  
について環境整備等研究を進める



## 協議



「令和6年度以降の藤沢市学校部活動の地域連携・  
地域移行の方向性及び計画（案）」について

- 第1ステップと第2ステップの考え方
- 休日の部活動は「拠点校型学校部活動」として行う
- 第1ステップ 令和6年度の計画
- 第1ステップ 令和7年度以降の計画

